

ほけんだより 3月

寒さも和らぎ、少しずつ暖かくなってきました。おひさまや風もほんのり春の香りがします。今年度も残すところ、あと1か月になりました。1年前を思い起こし、子どもたちひとりひとりの表情や行動に改めて大きな成長を実感し、嬉しく思います。ゆり組さんにとっては保育園生活最後の月となります。みんなで元気に進級や就学を迎えられるよう、心身ともに健康に過ごしましょう。



耳をのぞいてみましょう

子どもの耳を観察してみてください。びっくりするほど耳あかが詰まっていることがあります。あまりすぎていると聞こえが悪くなったり、プールに入ると水でふやけて鼓膜を圧迫したり、ときには菌が繁殖して、外耳炎を起こすこともあります。

耳を守るために

- 耳の近くで大きな声や音を出さない。
- 耳をたたかない。
- 鼻をかむときは片方ずつ。
- 耳掃除をする。

※耳の病気には中耳炎があります。
※耳あかが見えていても取りずらいときは無理をせず、耳鼻科を受診しましょう。

進級・進学を控えて気持ちが不安定になる時期です

新年度を控え、多くの子ども達が「ひとつ大きくなる」という喜びでいっぱいな時期です。ただ、なかには、大人の期待を過剰に受け止めて、気持ちが不安定になる子どももいます。今までなかったのに、急に次のようなようすが見られたら、何かストレスを感じていることがないかどうか注意してみてください。

指しゃぶり・つめかみ

どもり

チック



- 目をパチパチさせる
- せきばらいをする
- 肩をびくつと動かす...など

～小学校に入学するまえに～ (ゆり組)

- ☆ 歯科(虫歯治療やフッ素塗布など)や眼科(物の見方が気になる、弱視など)、気になるところは、小学校入学までに診察を受けるようにしましょう。
- ☆ 自分の体調が悪い所や痛い事をしっかり言葉で伝えられるようにしておきましょう。
- ☆ 早寝・早起き・朝ごはんの習慣をきちんとつけましょう。

新型コロナウイルス ～正しくつけて感染予防～

新型コロナウイルスの感染が続いている中、マスクの着用が定着してきました。これからも自分が感染しない、相手に感染させないためにもマスクの着用を徹底しましょう。また、マスクは正しくつけてこそ効果があります。正しいつけ方を知り、感染症を予防しましょう。

《マスクの正しいつけ方》

- 口と鼻の両方をおおう。(鼻を出したり、あごにかけるのはやめましょう。)
- サイズが合ったものをつけ、できるだけすき間をつくらないようにする。(ゴムひもで調節しましょう。)
- 毎日交換し、汚れた場合もすぐに交換しましょう。



「聞く力」を育むために ～実践編～

(言語聴覚士・保育士 塚原桂子)

今回は聞く力を育むための態勢づくりについてお伝えしましたが、今回は「聞く力」を高めるための具体的な関わりについてお伝えします。

まず、大前提として、どのお子さんに対しても家庭での「豊かな会話(特に親との会話)」が大切です。そのためには「わかりやすく丁寧に語りかける」ことが重要です。とげとげしいことばをかけ続けると、子どもから「聞く力」を奪ってしまいます。大人自身が「命令文ではない文体で穏やかに明瞭に語りかける」ことを意識していきたいですね。わかりやすく丁寧な語りかけがあり、豊かな会話がある家庭やクラスでは、子どもたちは「人として尊重されている」と感じることができます。その結果、「耳が育ち、ことばが育つ」だけでなく、人への基本的信頼感が高まり、自己肯定感が育っていきます。また、幼児期から学齢期前半には、本の読み聞かせが特に有効です。心地よい読み聞かせを十分に経験した子どもは、人の声を聞くのが好きになり、人の声に耳を傾けるようになります。同時に学力や情緒の土台である「豊かな想像力」が育ちます。

次に具体的に「聞く力」を高めるための生活の中での関わりについて、年齢別に大まかではありますが、以下に挙げました。子どもの発達段階に合わせた「聞く力」を育む関わりができるといいですね!

〈0歳～2歳頃〉興味を持って相手を見たり、様々な周囲の音や声に関心を持ったりできるような関わりを

- ・手遊び歌(トントントンひげじいさん、一本橋こちょこちょ など)
- ・歌(大きな栗の木の下で、げんこつやまのためきさん など)
- ・絵本(『しましまぐるぐる』、『だるまさんが』、『ごあいさつあそび』、『Sassy のあかちゃんえほん』など)
- ・写真や絵、具体物を見ながら指差しでの選択(例:絵を見せながら「りんごどれだ?」、「座るのどれだ?」)※単語の理解は1歳頃から、用途(イス→「座る」、靴→「履く」)の理解は2歳頃から理解が可能になります。
- ・選択の機会を設ける(例:「どっちがいい?」と質問しながら、好きな絵本やおかし、洋服などを選ばせる)
- ・簡単なお手伝い(例:「スプーン持ってきて」、「赤いコップ取ってきて」、「〇〇ちゃんの帽子とってきて」など)
- ・簡単なぞなぞ(例:「ワンワンってなくの何だ?」、頭の上に両手をあてて、うさぎのジェスチャーをしながら「ぴよぴよはねるの何だ?」など)

〈年少～年長〉ことばを聞いてイメージしたり、連想したり、意味を理解したりできるような関わりを

- ・お買い物ごっこ(例:大人「りんごとみかん下さい」→子ども りんごとみかんを渡す)
- ・お手伝い(例:「ティッシュを机の上に置いてくれる?」、「お箸とスプーンとコップを取ってきて」、「お皿を下げた後、読みたい絵本とってきて」、「ミニトマトを1個ずつお皿に入れて」、「大きなお皿を食器棚から出して」など)※年齢が高くなるほど言われた内容をより多く保持できるようになっていきますが、難しい場合は、難易度を下げ、なるべく失敗させないように、確実にできることから始めてみましょう。
- ・なぞなぞ(例:「赤くて丸いくだもの何だ?」、「紙を切るときに使う道具何だ?」、「ドーナツみたいな形でプールや海で使うもの何だ?」、「パンなのに食べられないパンは何だ?」など)
- ・お話クイズ(例:「A 子ちゃんがパン屋さんに行きました。あんぱんとメロンパンと食パンを買いました。さて A 子ちゃんが買ったパンは何パンだったでしょう?」)
- ・連想ゲーム(例:「バナナといったら黄色」→「黄色といったらレモン」→「レモンといったらすっぱい」→「すっぱいといったら梅干し」など相手と交互に連想していく)
- ・しりとり(例:「しりとり」→「りんご」→「ごりら」→「らっぱ」→「パイナップル」など)
- ・音かぞえ(例:「今から言うことばの音の数を教えてね。す・い・か 音いくつ?」)※難しい場合は、すいかと言いながら手を3回打つ)